

所報

<Shoho>

川崎市総合教育センター

〒213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3

TEL 044-844-3600

代表メール KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp

ホームページ <http://www.keins.city.kawasaki.jp/>

心の中のグラデーション

川崎市総合教育センター 所長 鈴木 克彦



令和4年度の「川崎市立小・中学校における児童生徒の問題行動・不登校等の調査結果」が昨年10月に公表されています。その結果によると、小中学校ともに不登校児童生徒は増加傾向にあり、ともに過去最多の人数です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う生活環境の変化の影響とともに、with コロナ、after コロナの今、変化した環境がもとに戻るといふ変化や、新たな生活様式や新たな価値観が生まれていることの影響もあるでしょう。

また、文部科学省が令和5年12月に公表した「令和4年度公立学校教職員の人事行政状況調査」によると、全国で教職員の精神疾患による休職者数が過去最多となっています。業務量の増大や、複雑化・多様化する事象への対応等、教職員のストレスや悩みも大きくなっています。

さて、私が拠り所にしてしている言葉の1つで、学校では生徒にも話した言葉なのですが、心理学者の河合隼雄氏が著書『こころの処方箋』の中で、「心のなかの勝負は51対49のことが多い」と書いています。「51対49というのはわずかな差なのだけれど、それは無意識のうちに沈んでいて意識するところは2対0のように感じられる。意識的には片方が強く感じられるが、実はそれほど一方的ではない。」

何か2つのうちのどちらかに決める場合、実は両方の気持ちがある中で勝負が決まる。「がんばろう」という気持ちと「がんばれない」という気持ち、両方ある中で「がんばろう」という気持ちが勝つ。でもそれは、「51対49」といったわずかの差であったりする。私達

の決断や行動はいつもそのようなことなのだと思います。だから、「がんばれない」という気持ちが勝った人も、実は49ぐらいは「がんばろう」と思っていた。でも、行動だけ見ると、「0対100」だと思われてしまうのかもしれない。

SNSが全盛の今、そのつぶやきは「Yes」か「No」かだったり、「いいね」か批判かの2択になったりしがちです。でも、自分も、相手も、この世の中全体も、「100か0か」で成り立っているのではないですよ。

私自身は、自分の中の多様な気持ちを大事にしたいと思っています。そしてそれは相手に対しても同じことで、異なる考えの人と出会ったときに「考え方の全く違う人」、「自分と合わない人」ではなく、相手にも相反する気持ちが同居しているのだと考えるように努力しています。

誰もが持つ、心の中のグラデーションの世界を理解し合えると、相手の見え方、社会の見え方、そして自分の見え方が少し変わって、少し認められるようになるのではないかと信じています。多様性の理解や、自己理解はそんなところから始まるのではないのでしょうか。

年度末、年度初め、子どもも教職員も、新たな気持ちで新たなスタートを切ろうとしているでしょう。学校で、家庭で、そして社会で、頑張っているお互いを認め合う中で、夢や希望を持って、自分の生き方ができる世の中でありたいものです。

令和5年度『所報』第2号 主な内容

【巻頭言】

心のグラデーション…………… 1

【特集】川崎市学習状況調査…………… 2・3
(カリキュラムセンター)

情報・視聴覚センター…………… 4

特別支援教育センター…………… 5

教育相談センター…………… 6

川崎市学習状況調査

すべての児童生徒が「わかる」を実感できる授業を目指して

川崎市学習状況調査の結果と授業改善の視点

令和5年度から新しくなった川崎市学習状況調査では、対象学年を小学校4年生から中学校3年生までの6学年に拡充しました。また、分析方法も「4層分析¹」を取り入れることにより、児童生徒のより詳細な学習状況を把握することができるようになりました。調査結果の概要は次のとおりです。

○教科調査より ※次の表の数値は、それぞれの平均正答率（％）

【小学校】

国語

	国語の平均正答率	学力層別の国語平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
小4	72.6	93.2	82.3	70.4	44.7
小5	70.9	92.2	80.2	66.8	44.5
小6	70.6	90.3	78.6	66.9	46.7

算数

	算数の平均正答率	学力層別の算数平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
小4	69.3	91.1	79.5	66.7	39.8
小5	64.6	89.6	75.0	59.6	34.2
小6	62.7	90.9	74.1	55.5	30.2

【中学校】

国語

	国語の平均正答率	学力層別の国語平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
中1	71.3	91.4	79.9	67.6	46.4
中2	74.0	91.7	82.1	71.4	50.8
中3	73.1	91.0	80.7	70.1	50.7

社会

	社会の平均正答率	学力層別の社会平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
中1	52.3	76.9	58.5	45.8	29.7
中2	48.0	73.7	54.1	39.9	24.5
中3	52.9	80.1	61.1	44.5	25.7

数学

	数学の平均正答率	学力層別の数学平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
中1	67.3	91.5	78.0	63.0	36.9
中2	50.4	78.3	59.8	42.8	20.9
中3	49.5	81.3	60.0	40.5	16.3

理科

	理科の平均正答率	学力層別の理科平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
中1	60.9	83.6	68.7	55.6	35.7
中2	51.7	76.9	59.2	44.1	26.6
中3	60.9	85.9	70.1	55.4	32.0

英語

	英語の平均正答率	学力層別の英語平均正答率			
		A層	B層	C層	D層
中1	75.5	91.8	81.4	72.6	56.0
中2	64.6	93.0	76.2	55.6	33.6
中3	63.8	92.6	76.8	55.5	30.2

- ・全体の平均正答率に加え、**学力層別の平均正答率を把握**することにより、**多面的・多角的に分析することが可能**となりました。
- ・教育委員会としては、**学力層別の正答率に着目**し、**同一集団の経年変化を注視**していきます。

¹ 教科調査の4層分析は、受検者を教科ごとに調査結果の高い者から並べ、上位から25%ずつをA～D層の4つの層に分けたもの。意識調査の4層分析は、小は2教科、中は5教科の合計点で並べ、上位から25%ずつをA～D層の4層に分けたもの。

○意識調査より ※次の表の数値は、質問に対する肯定回答率（％）

質問項目：あなたは、次の教科の授業が、どれくらいわかっていますか。

	国語	社会	算数 数学	理科	英語
小4	86.3	81.2	84.3	90.4	
小5	86.6	83.5	78.6	89.8	
小6	87.4	85.6	73.7	87.7	
中1	79.7	68.8	69.6	71.4	66.2
中2	81.9	62.9	59.6	63.3	66.3
中3	79.5	68.3	63.9	65.6	60.3

各教科の理解度については、肯定的な回答をした児童生徒の割合を同一母集団の経年でみていきます。

質問項目：わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。

質問項目：授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方も一緒に理解しようとしている。

	川崎市	川崎市学力層別			
		A層	B層	C層	D層
小4	76.0	83.8	78.4	74.6	67.1
小5	73.2	85.4	77.1	67.6	60.3
小6	71.1	86.1	75.8	66.8	55.9
中1	70.6	82.5	74.3	68.1	57.5
中2	61.9	81.3	65.4	55.9	45.0
中3	63.6	84.0	69.4	58.4	42.7

	川崎市	川崎市学力層別			
		A層	B層	C層	D層
小4	74.9	81.4	76.9	74.0	67.4
小5	71.2	85.7	75.8	67.2	56.3
小6	71.8	88.2	77.6	67.2	54.7
中1	69.4	83.2	75.3	66.3	52.6
中2	62.9	81.5	68.4	57.7	44.1
中3	66.0	85.2	72.4	61.6	44.6

次年度以降も意識調査から、**授業の理解度、学習態度に関する意識等**の質問について注視していきます。

○学習状況調査の結果を生かした授業改善の視点

1 「何がわかっている、何がわかっていないか」について、児童生徒が自覚できるようにする。

2 わからないことに対して諦めず、粘り強く取り組むために、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習をこれまで以上に大切にする。

3 いつでもGIGA端末等を活用して、学習に取り組める環境を整備する。

- ①既習を活用させる。（見通し）「わからない」「困った」を大切ににする。
- ②理由や考え方に着目させる。「どうして」「なぜ」を大切ににする。
- ③振り返りを充実させる。「そうか」「なるほど」を大切ににする。

- ①題材、課題に向き合う見る視点をもたせる。
- ②自分の考えをもつ解決するための手段や方法をもたせる。
- ③友達と解決する「わかった」という実感をもたせる。

- ①児童生徒の自発的な取組 自分自身の課題把握と学習意欲の醸成
- ②保護者、家庭との共有 家庭学習の改善、充実
- ③GIGA 端末の活用 学校や家庭で学習ソフトなどの取組

◇ステップ3の実現に向けた教職員の研修

「かわさき GIGA スクール構想 ステップ3」は「一人一人の子どもが主語の端末活用」を合言葉に、「各教科等の学びが、他教科等や生活につながることで、社会課題の解決や一人一人の夢の実現に活かす」ことを目指しています。

今年度、情報・視聴覚センターでは、かわさき GIGA スクール構想に関する希望研修を 20 回実施しました。GIGA 端末の操作方法を学ぶ研修や授業力向上につながる端末活用を学ぶ研修では、受講者同士で実践を共有したり、意見交流をしたりしながらステップ3の実現に向けて考えていく姿が見られました。また、文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX 推進チームや教育工学を専門とする大学教員を講師として招いた研修も行いました。その研修では、GIGA 端末の活用を通して、「一人一人の子どもが主語」となるような「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現するための視点や考え方を学ぶことができ、授業のイメージが膨らんだという声も聞かれました。新たな試みとして講師の話聞きながら GIGA 端末上のグループチャットを活用し、リアルタイムで受講者同士の考えを交流する研修も実施しました。この研修では、オンライン上でも活発な意見交換をする様子が見られ、研修内容をより深めることができていました。グループチャットの活用は、教職員の業務の効率化にもつなげられる方法として、文部科学省のウェブサイトでも紹介されている方法です。研修に参加した先生がそれぞれの学校でその成果を発揮することで、子ども一人一人が夢の実現に近づいてくれればと思います。



受講者が実践を共有し、意見交流しながらステップ3について考える研修の様子です。お互いの実践について白熱した議論と意見を交わし合うことで、夏季休業明けの自校での実践のイメージを膨らませていました。

◇かわさき GIGA フェスティバル 2023

11月11日（土）に川崎市教育委員会と NEC 通信システムとの共催で、「かわさき GIGA フェスティバル 2023」を NEC 玉川ルネッサンスシティホールにて行いました。タイピングの速さと正確さを競う「タイピングコンテスト」や、川崎市に関するクイズにインターネット検索を駆使して答える「川崎検索クイズ」、



子どもたちは日頃の学習で培われた情報活用能力を発揮し、これからの学習への意欲を高めることができました。

NEC 通信システムの方による将来の夢につながる話を伺う「教えてプロフェッショナル」などが行われました。タイピングコンテストは事前にオンライン予選会を行い、会場ではその上位45名による決勝大会が行われました。決勝大会に来られなかった参加者には、YouTube Live によるオンライン配信が行われ、会場の参加者と一緒にフェスティバルをリアルタイムで楽しむことができました。会場だけでなく、特設クラスルームでも、参加者同士が励まし合う様子も見られるなど、タイピング技術を競い合いながらも互いを認め合う雰囲気伝わってきました。日常の学校生活で身に付けた情報モラルを含めた情報活用能力を発揮するとともに、一層高めることができたイベントでした。



支援を必要とする子どもの就学相談について

「就学」は、小学校入学、特別支援学校小学部入学、中学校入学、特別支援学校中学部入学などの大きな節目です。よりよい「就学」に向けて、本人・保護者、学校、教育委員会（総合教育センター）で相談を進めます。

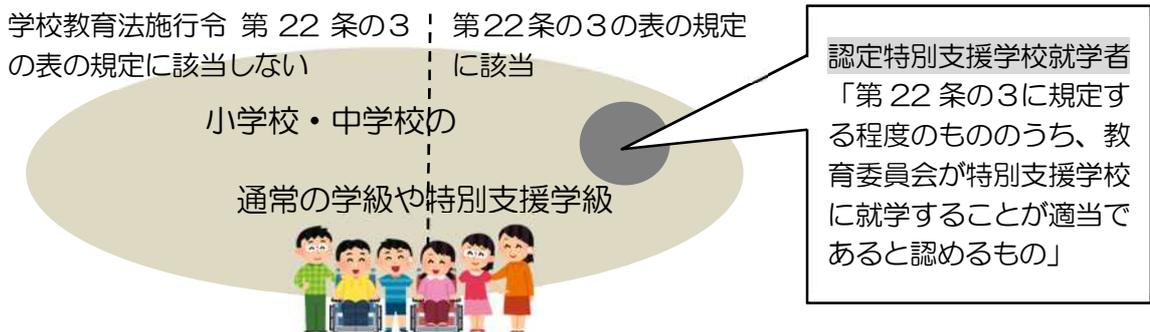
インクルーシブ教育システムの構築が推進されています！

日本では、平成26年に「障害者の権利に関する条約」という国際条約に批准しました。これに伴い国内の法令や制度、考え方等が変化しています。

学校教育においては、共生社会に向けて障害のあるものと障害のないものが共に学ぶ仕組みを充実させる、インクルーシブ教育システムを構築していくことが、現在の大きな目標になっています。

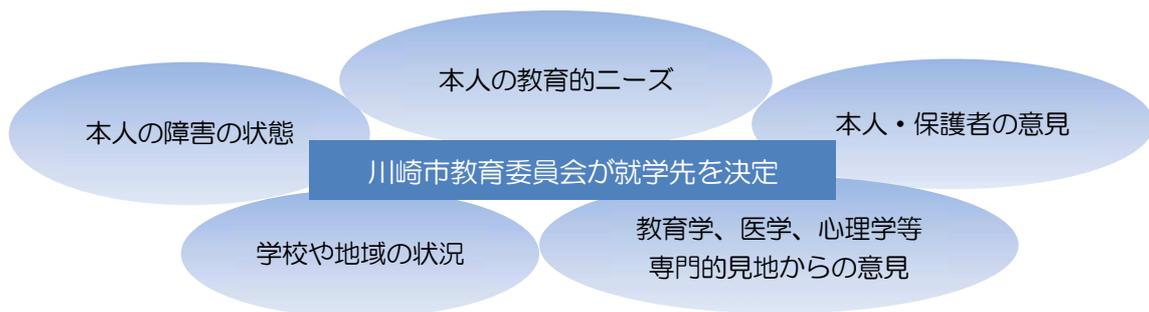
川崎市では、共生社会の形成を目指し、特別支援教育のさらなる充実を図るとともに、教育的ニーズのあるすべての児童生徒を対象とした支援教育を推進しています。すべての子どもが必要な教育的支援を受け、できる限り同じ場で学ぶことを通じて、学習に参加している実感や達成感を持ちながら、充実した時間を過ごす中で助け合い、支えあって生きていく力を身につけることを目指しています。

就学先決定の仕組み等については「学校教育法施行令」の一部改正施行されたことにより、原則として「障害の程度」によって決定していたものを、障害の状態だけでなく、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から市町村の教育委員会が決定することとなりました。



川崎市では、子どもの可能性を最も伸長する教育が行われることを前提に、障害の状態、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、教育学、医学、心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から就学先の判断を行います。この場合においては、本人・保護者の意見を可能な限り尊重しつつ、本人・保護者と川崎市教育委員会、学校等が教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則とし、最終的には川崎市教育委員会が就学先を決定することとなります。

なお、就学時に決定した「学びの場」は、固定したものではなく、それぞれの児童生徒の発達程度、適応の状況等を勘案しながら、学びの場を見直すことも可能です。



※年長児の就学相談については、毎年度4月頃に、資料と動画を川崎市総合教育センターホームページに掲載いたします。

不登校児童生徒への支援

教育相談センター

令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果によりますと、全国の不登校児童生徒数は10年連続で増加しているとの報告があり、川崎市でも同様に増え続けています。不登校の理由は、子どもによって様々です。学校に登校することのみをゴールとせず、子どもが困っていることに寄り添いながら社会的自立を目指していくことが大切だと考えます。教育相談センターでは、不登校をはじめ、様々な相談をお受けする相談体制を整備しています。

電話相談 (教育一般)

相談者の名前や学校名を尋ねることはありませんので、気軽に相談できます。どこに相談してよいかわからないというご相談にも対応します。

塚越相談室 ☎541-3633

(毎日 9:00~18:00)

溝口相談室 ☎844-3700

(平日 9:00~16:30)

※溝口相談室は祝休日・12/29~1/3を、
塚越相談室は12/29~1/3を除きます。

来所相談

平日の午前9時~午後5時の間で、相談室に来ていただき相談員と直接相談(1回50分)ができます。予約制となっていますので、電話でお申し込みください。後日、当センターから相談日時についてご連絡します。状態の改善に向け、支援方法を一緒に考えていきます。

川崎・幸・中原区に在住の方

塚越相談室 ☎541-3633

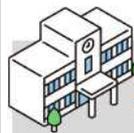
(平日 9:00~17:00)

高津・宮前・多摩・麻生区に在住の方

溝口相談室 ☎844-3700

(平日 9:00~17:00)

※祝休日・12/29~1/3を除きます。



学 校

担任・支援教育コーディネーター・
学年主任・養護教諭・
生徒指導担当(中学校)など

スクールカウンセラー 学校巡回カウンセラー

中学校・高等学校には週1日程度、小学校・特別支援学校には月に2日程度、心理の専門家であるスクールカウンセラー(中高)・学校巡回カウンセラー(小特)を配置しています。より専門的なご相談を学校内ですることができ、学校の先生には話しにくいご相談も受け付けています。申し込みの仕方については、学校にご確認ください。

※学校の休業日を除きます。

ゆうゆう広場 (教育支援センター)

市内在住の小中学生または市内の学校に通う小中学生で、心理的な理由や様々な事情から学校に行けない、もしくは行きにくい状態になっている子どもたちが対象です。安全・安心を大切に、個人学習や様々な体験的な活動を通して、自分の良さを再確認したり、心のエネルギーを溜めたりするなど、それぞれのペースで社会的自立に向けた準備を進めていきます。市内6カ所に設置されており、学区はないのでどの広場にも登録ができます。

見学・入級相談受付

☎522-3534

(平日 9:00~16:00)



※祝休日・12/29~1/3を除きます。

その他の相談やゆうゆう広場等についての利用方法、アクセスなどは「川崎市総合教育センター」のウェブサイトの「相談案内」にてご案内しております。

インターネットにて「川崎市総合教育センター」と検索をするか、右の二次元コードよりご確認ください。

